（別紙1）　　2019　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0792300014		
法人名	医療法人　正生会		
事業所名	グループホーム郷の家1階		
所在地	福島県南会津郡下郷町大字塩生字下タ原1313-1		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253　福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和２年３月６日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・誕生日には好きなメニューを作り、他入居者皆でお祝いしている。季節の旬のものを献立に取り入れている。
・佐藤医院が隣接しており急変時、状態変化時にすぐに対応ができる。
・体を動かすレクリェーション、創作活動を行っている。毎日、ラジオ体操を行っている。
・その人らしく暮らしていけるよう、一人ひとりの話を聴いて思いに寄り添った支援をしている。
・文化祭に作品を出品している。夏祭りの際、民生委員の協力あり、家族が参加している。中学生の職場体験、敬老会では花みずき会、クリスマス会には郷人の慰問がある。地域包括支援センターの協力で認知症サポーター養成講座、オレンジカフェを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1. 事業所は、運営推進会議等を通して町や地域包括支援センターと協力関係を築き、認知症サポータ養成講座や認知症カフェを開催し、また事業所行事に民生委員やボランティアの協力を得るなど地域の方の理解を得られるよう努めている。さらに、利用者が町文化祭へ作品を出品したり、敬老会や町防災訓練等へ参加し、地域とのかかわりが持てるよう取り組んでいる。
2. 隣接する医療法人が運営する事業所であり、利用者全員の健康管理が行われており、急変時や緊急時等、日常的に適切な医療が受けられる体制が整っている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で共有できるよう見やすいところに掲示し朝礼時に唱和している。職員会議の際、今月の目標、具体的なケアを話し合い、意見の統一を図っている。	事業所内に理念を掲示し、朝礼時に全職員で唱和しながら、理念の共有に努めている。また、職員会議で理念の振り返りを行い、毎月の目標を定め、サービスに活かせるよう意思統一を図りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の防災訓練に参加している。敬老会には花みずき会、クリスマス会には地元のよさこいグループ郷人の慰問がある。文化祭に作品を出品し、下郷中学校の職場体験、会津若松社協の見学を受け入れている。	認知症サポーター養成講座、認知症カフェを開催し、町の文化祭に利用者の共同作品を出展する等、地域との交流が持てるよう取り組んでいる。また、事業所行事に地域ボランティアを依頼したり、中学生の職場体験や民生委員の見学受入れを通して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協力し、認知症サポーター養成講座、オレンジカフェを開催し、地域の方へ認知症の人の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	2か月に1度会議を開催している。ホームの近況や予定、事故、ヒヤリハット、外部評価について報告している。運営推進委員より出された意見、助言に関して職員全体で話し合いを行いサービスに反映している。	運営推進会議は定期的に開催されている。事業所の現況やヒヤリハット、利用者状況等を報告し、委員から意見やアドバイスをもらい、それを運営に活かしている。町の防災訓練参加のアドバイスをいただき、利用者と職員が参加した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、事業所の実情を伝えている。認知症サポーター養成講座、オレンジカフェを地域包括支援センターと協力して行っている。	運営推進会議に地域包括支援センターの町職員が出席しており、事業所の現状や利用者状況を伝えている。また、生活保護担当職員との連携や担当課職員と介護保険に関する相談、認知症サポーター養成講座開催等を通して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成、勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。	身体拘束廃止委員会が中心となり、身体拘束廃止に関する指針の策定と研修会を開催し、「身体拘束禁止規定に関する具体的行為」の理解を深め、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを実践している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透、遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護の勉強会を行っている。現在、該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金、退去を含めた事業所の対応可能な範囲についての説明を行っている。また、介護報酬の改定時には説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より、電話や面会時、運営推進会議の際に出された意見、要望等には職員会議時に話し合い、反映させている。	利用者・家族に運営推進会議に出席してもらい意見を聞く機会を設けている。また、日常生活の中で利用者の思いや意向を把握するよう努め、家族からは、面会時や行事、受診報告等の際に意見や要望を聞き、出された意見を会議で検討しながら、運営に反している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月2回行い、議事録を法人に提出し、職員の意見、要望を伝えて、反映させている。	管理者は、日常業務や会議等を通して職員の意見や要望を聞き、出された意見や提言を運営に反映するよう努めている。また、法人へは月2回の職員会議で出された職員の意見や要望を記載した議事録を提出し要望等を報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断を年2回行っている。代表者は、職員の勤務状況や実態を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し、内容を会議で報告、全職員が情報を共有している。勉強会委員会が年間計画を立て、月1回、職員会議時に勉強会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際に、他ホーム職員と交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には、必ず本人に会って、心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況等、経緯についてゆっくり話を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、本人の様子を見極め、必要としているサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある不安、喜び等を知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を家族に伝え、家族の思いに寄り添い、本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、電話での連絡を取り持つ等、関係を継続できるようにしている。また、家族の支援で外泊や外出等行っている。馴染みの理容所で散髪、毛染め行っている。	入居前の行き付けの理容店に散髪を継続して出掛けられるよう支援している。また、家族の協力で自宅や温泉、名勝地に出掛けられるよう支援し、関係が途切れないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で過ごせる場面づくりをする等、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している。心身の状態や気分、感情で日々、変化する時もあるので注意深く見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の相談員等に、これまでの支援内容、注意が必要な点について情報提供している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを日々の行動や表情から汲み取り把握するよう努めている。できる限り、本人の思うようにしていただけるよう努力している。	入浴時や日常の関わりの中での会話、言動等から、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、家族からの情報や日頃の行動・表情等から意向を汲み取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅に訪問して、本人、家族からどんな生活をしていたか聴いている。また、家族の面会の際、話を伺い生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできること、できないことを把握し生活リズムを理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは日々のかかわりの中で、家族からは面会時や電話で思いや意見を聴き、反映させるようにしている。職員全体でモニタリングを行っている。	入居時は1ヶ月、定期3ヶ月毎の見直しを行っている。全職員でモニタリングを行い、生活の中での利用者の思いや希望、家族の意向を反映した介護計画を作成している。利用者の状態変化時は、状況に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき、利用者の状態変化は個々の記録に記載し、職員間で情報を共有している。個人記録をもとにケアプランの見直し、評価を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向、その時の状況から必要なサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に塩生区長、民生委員会長、地域包括支援センター職員、家族、利用者代表、法人代表に出席していただき意見交換する機会を持っている。避難訓練時、消防の協力がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望する医療機関を受診できるよう家族と協力し通院介助を行っている。また、かかりつけ医には必要時、受診、相談できる。	医療法人が運営する事業所であることから、利用者及び家族は利便性を考慮し同一敷地内にある医院をかかりつけ医として選択している。そのため家族への説明と連絡はスムーズに行われ、他の医療機関との連携も密に行われ、利用者の医療への支援が適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化等、見逃さないよう、早期発見に努めている。変化等気づいたことがあれば隣接する医院に報告して受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し職員が見舞うようにしている。また、なるべく早く退院できるように、病院関係者と話す機会を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時にはその都度家族に状態を報告し、家族の意向を伺い、主治医と話し合いの場を設けている。その内容を全職員で共有し、安心して過ごせるよう取り組んでいる。	入居時に重度化した場合に事業所で出来る支援について説明し、看取り指針も作成している。また、ターミナルケアに対しての考えを事前確認書で聴き取り、主治医を中心に家族と共にターミナル時の対応に備えている。看取りについての勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルを作成している。医師による勉強会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定の避難訓練を消防署、佐藤医院の協力を得て実施している。防火対策の年間計画を立て、職員会議時に避難経路の確認、消火器の使用方法、通報訓練等を行っている。避難経路確保のため、除雪を行っている。食料、水、おむつ等備蓄している。	消防署立ち会いで、年2回夜間想定の避難訓練を実施し、町の防災訓練にも利用者2名が参加して防災への意識を高めている。防火対策年間計画を立て、毎月計画に沿って避難行動や消火器の点検・操作方法を確認している。災害に備え食料や水の備蓄も行い、同法人医院との協力体制も整っている。	火災だけでなく地震や風雨水害等の昼夜を問わない想定訓練を行い、全職員が避難誘導できるよう実施してほしい。また、隣接医院の協力体制が取られているが、地域住民の協力も得られる取り組みも望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を行っている。援助が必要な際は、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛け、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	日常生活の中で、利用者への親しみから丁寧な言葉かけがおろそかにならないよう、勉強会の中に、権利擁護や接遇マナーについて学ぶ機会を持ち、利用者の誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。個人情報は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方の表情を読み取り、些細なことでも本人が決める場面を作っている。（飲みたいもの、食べたいもの）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。その日、その時の様子を見ながら休息場面を作る等、個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の来訪にて散髪行っている。馴染みの理容所に行き散髪毛染め行っている方もいる。起床時や衣類の汚れがあった際、さりげなく整容の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者の嗜好把握を行い、献立に反映している。同じテーブルを囲んで食事をしている。下膳、テーブル拭き等、行っている。	楽しみな食事になるよう、郷土料理を盛り込んだり、季節感が出るような献立にしている。また、利用者の誕生日には好きなメニューで食べる特別食も好評でおしゃべりが弾む時間となっている。野菜の皮むきや下膳・テーブル拭き等は出来る利用者が職員と一緒に行い力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎食記録している。本人の好きなものや食べやすいものを出すようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	佐藤医院歯科衛生士による口腔ケアを月2回行っている。口腔ケアの指導を受け、毎食後、歯磨きの声かけを行い力に応じて支援している。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子を見て身体機能に応じて自尊心に配慮しながら、トイレで排泄できるようにさりげなく支援している。	24時間排泄シートを使用し排泄記録を取っている。記録と利用者の表情・行動から排泄時を把握し、自尊心に配慮しトイレ誘導を行っている。職員の誘導でトイレで排泄しているため、排泄の失敗が少なくなり尿取りパットの使用枚数が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録している。おやつの水分摂取に乳製品、果物を摂取、体操、風船バレー等運動を行い、便秘対策に取り組んでいる。便意があってもなかなか出せない方は、摘便を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の希望を確認し支援している。時間帯も状況を見ながら対応している。入浴を楽しめるようゆず湯を実施している。入浴を拒否する方は、タイミングや対応する職員を変えたり、後日入浴できるように支援している。	入浴は週2～3回で午後の暖かい時間（利用者の状況に応じて午前入浴も行う）に実施している。入浴拒否の場合は時間をおく、職員を変える、翌日にする等で対応している。着替えの選択も利用者が行い、選択が困難な方は職員と一緒に選ぶ方法で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう日中の活動に配慮している。夜間、眠れない時にはその方の思いに配慮して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を全職員共有できるようにしている。飲み忘れの無いよう、服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみを行う方、テーブルを拭く方、塗り絵を行う方、新聞や雑誌を読む方等、得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望時に散髪に行っている。家族と外食、買い物等できるように希望に応じて支援している。	事業所主催の外部で行うオレンジカフェや町主催の防災訓練に参加している。利用者の希望で散髪に出かけている。家族と買い物や外食、温泉に出かけたり、自宅への外泊等、利用者・家族の希望に応じ支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族ごとの意向に合わせている。本人がお金を持っていることで安心感を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より電話が来て話をしたり、本人の希望により家族に電話をかける支援をしている。家族より手紙が届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには、季節ごとに利用者と一緒にちぎり絵や塗り絵を作成し、季節感を取り入れる工夫をしている。	事業所内は文化祭に出品した多くの作品が展示され、和のスペースには赤鳥居に十二支を飾り町内的雰囲気を作っている。生活が楽しめるレイアウトに趣向を凝らし利用者・職員が力を合わせ季節感ある作品を展示している。共有スペースは広く清潔で適切な温度・湿度に管理され快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前と少し離れたところにソファーを置き、気の合う人同士でゆったりと過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	それぞれの利用者の好みやなじみの物等を生活スタイルに合わせて、家具、テレビ、写真、位牌等自宅より持ってきていただいている。	居室は箪笥・テレビ・電気スタンド・ソファー・位牌・家族写真等が自宅からの持ち込まれ、それぞれ個性的な落ち着きのある生活空間を作り、清潔に整えられている。また、どの部屋にも職員手作りのお誕生日カードが飾られ、利用者・訪問者との話題提供になるものと思われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつける等、環境整備に努めている。		